

4 学習指導案例

(1) 教科の一般例

学習指導案は、学習指導要領の指導事項をどのように指導すると効果的かを構想した学習指導・支援の計画書である。構想に際しては、学習指導要領解説を熟読して指導内容の系統性や児童生徒の実態等を踏まえて、どのような指導が効果的かをよく考える必要がある。

以下に示す学習指導案の形式はあくまでも例であるので、各学校が創意工夫して設定する上での参考としてほしい。

なお、本事務所HPには算数、特別の教科 道徳、学級活動の指導案例を掲載している。

〇〇科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
第〇学年〇組 (〇名) 指導者〇〇 〇〇

1 単元名 (小単元名、題材名)

2 単元 (題材) の目標

学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説を踏まえて、本単元で育成を目指す資質・能力を明確に示すことが大切である。

児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて、3つの柱で整理された資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」における目標を設定する。

3 単元 (題材) の評価規準

単元 (題材) の目標を踏まえ、評価規準を作成する。作成に当たっては、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(令和2年6月)及び栃木県教育委員会「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」(令和2年7月)を参考にするとよい。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①
②	②	②
文末は「～している。」	文末は「～している。」	文末は「～しようとしている。」

※知識については「～理解している」「知っている」と示すこともある。

※技能については「～する技能を身につけている」状況を「～できる」と示すこともある。

※①②等の評価規準数は単元によって変わる。

4 単元 (題材) の指導について

(1) 教材観

育てようとする資質や能力及び態度、内容について教師の願い等を踏まえて記述する。

具体的には、以下のような流れで書くことが考えられる。

単元設定の根拠 …各教科の学習指導要領を踏まえて示す。

↓

指導の系統性 …既習事項や関連する指導内容を踏まえて記述する。

↓

指導の手立て …どの資質・能力をどの場面でどのように高める指導をするか考えて記述する。

(2) 児童生徒の実態

指導案で扱う指導内容に照らした児童生徒の実態が記述されていることが大切である。そのために、児童生徒の既習事項の習得状況や興味・関心などを的確に把握し記述する。

また、児童生徒が個別最適な学びを進められるよう、実態に応じてきめ細かく指導・支援するための手立て等が記述されるとよい。

5 学校課題との関連

各学校においては、学校課題を設定して授業研究等を進めている。授業を構想するに当たっては、学校課題との関連を図り、特に重点化する部分を中心に記述する。

6 人権教育との関連

各学校が人権教育計画の中で定義している育てたい資質・能力（「知性」「判断力」「感受性」「技能」「実践力」）について確認し、どの資質・能力と関連を図りながら本単元を指導していくかを考え、記述する。

なお、「8 本時の指導」の「人権教育の視点」「人権教育上の配慮」「生かしたい児童生徒」との一貫性にも留意する。

7 指導計画と評価計画

- ・単元の目標、教材観、児童生徒の実態から、指導順序や時間数、本時の位置付けを明確にする。
- ・単元の特性を踏まえながら、単元の目標を達成できるよう学習活動を効果的に配列する。
- ・単元の目標や評価規準を基に、1時間ごとの評価規準を作成する。
- ・学習評価は、児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置く。
- ・「記録に残す評価」については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選する。

(総指導時数◇時間)

時	ねらい・学習活動	評価の観点 重点	記録	評価規準 (評価方法)
1		思① 態②	・	
2		知② 態②	○	

思①は、「3 単元の評価規準」の「思考・判断・表現」の観点①を示す。

各観点のうち、四角囲みで示したものは、各時間の評価の重点を示している。

「指導に生かす評価」を行う機会には「・」、「記録に残す評価」を行う機会には「○」を付ける。

重点となる観点の評価規準を記述する。

※指導計画と評価計画の形式については、「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（栃木県教育委員会 令和2年7月）」を参考に、教科の特性に応じて作成することも考えられる。

8 本時の指導

(1) 題材名 (教材名)

(2) ねらい

本時のねらいを具体的に記述する。本時の評価規準との整合性が図られるように留意する。

(3) 人権教育の視点

本時の目標 (ねらい)、学習内容や指導方法と各学校で設定する人権教育での「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。

ここでの視点を踏まえ、展開の「人権教育上の配慮」において、具体的な記述をする。

(4) 生かしたい児童生徒

「(3)人権教育の視点」に基づき、本時の中で意図的に支援を行う児童生徒を設定し、どのようなよさを取り上げたり、どのようなことに配慮したりするのかを記述する。

人権教育上配慮したい児童生徒への支援だけでなく、よさを伸ばしたり、学級全体に生かしたりする指導や支援の内容、生かす場なども記述できる。

(5) 展開

◎人権教育上の配慮 ※学校課題との関連

学 習 活 動	形態 (分)	教師の支援・指導上の留意点		資料									
		評価規準・評価の観点 (評価の方法)											
1 既習事項を振り返る。 2 本時のめあてを共有して、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>		本時の学習のめあてを、児童生徒にとって分かりやすい言葉で共有した上で示す。 めあてを共有する方法やタイミングが、効果的になるよう配慮する。 教科によっては、学習課題を示す場合もある。											
		◎ ※ ◎ ※											
児童生徒の予想される反応を具体的に考えて、学習活動を構想する。 本時が「記録に残す評価」の場合は[十分満足できる状況(A)]の例についても記載する。		発問、板書の仕方、資料提示、個に応じた支援・指導、言語活動の充実などについて、「(児童生徒が)～できるよう～助言する」「～を促すことで(児童生徒が)～できるようにする」等、指導者の意図を明確に示し具体的に記述する。											
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価規準・評価の観点 (評価の方法)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">[十分満足できる 状況(A)]の例</td> <td style="text-align: center;">[おおむね満足できる 状況(B)]</td> <td style="text-align: center;">[努力を要する状況(C)] への支援の手立て</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">(評価の方法)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">(B)への支援の手立て</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価規準・評価の観点 (評価の方法)			[十分満足できる 状況(A)]の例	[おおむね満足できる 状況(B)]	[努力を要する状況(C)] への支援の手立て		(評価の方法)	
評価規準・評価の観点 (評価の方法)													
[十分満足できる 状況(A)]の例	[おおむね満足できる 状況(B)]	[努力を要する状況(C)] への支援の手立て											
	(評価の方法)												
	(B)への支援の手立て												
5 本時の学習を振り返る。		振り返りが充実するような工夫を行う。 <例>・本時のめあてが意識できるよう全体で確認する。 ・できるようになったことや気付いたこと、疑問に思ったことなどをノートに書くよう伝える。 ・振り返りを発表し合い、学びを共有する。など											

※各教科において[十分満足できる状況(A)]と判断するのは、評価規準に照らし、児童生徒が実現している学習状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合である。[十分満足できる状況(A)]と判断できる児童生徒の姿は多様に想定されるので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要である。